

第16回 海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE

ひとむかし、ひとみらい、ひととうみ

～ 分科会詳細のご案内 ～



10:30~12:00 部屋1

【分科会1】あなたの海辺 - いま、むかし、これから -

この10年、みなさんの生活はどのように変化してきたでしょうか。生活だけではなく、海辺の環境の変化を感じ取っている方も多いと思います。昔といまの海辺の姿を写真で見比べながら、みんなで未来の海の姿を描く90分。海辺のためにしてきたこと、していること、していきたいことをシェアしませんか。

オーガナイザー：安西 雅季（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）、田中 奏子（学生実行委員 / サンシャインコースト国立大学）

■ 飯嶋 修さん（一般財団法人 休暇村協会 / 休暇村 指宿 支配人）

タイトル：鹿児島島の海のように 休暇村指宿の海の環境教育プログラム

国立、国定公園内では、日本最大規模で宿泊事業やキャンプ場の経営を行っている休暇村協会で働いています。飯嶋です。日本各地の海の国立公園の休暇村を転勤しながら、シーカヤックとシュノーケルで海の観察と環境教育体験プログラムを実施してきました。9年前に鹿児島県のレインボー桜島に転勤し、現在は鹿児島県休暇村指宿の支配人のかたわらカヤック、シュノーケルのインストラクターで年間200名位の参加者を集めて体験講習を実施しています。

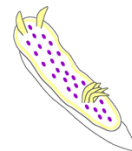
国立公園は超過疎地域で安定した仕事がないのですが、都会を離れ、豊かな自然の中で働きたい、暮らしたい、自然の素晴らしさを、現地から多くのお客へ伝えたいと思う生き物大好き理系の若者へ、就職の斡旋行います。ユーチューブで国立公園ライフを発信中です。

国立公園ライフ（動画） <https://www.youtube.com/channel/UCaqN4VV9abxC7OwrD9UgN4A>

フェイスブック <https://www.facebook.com/osamu.ijijima>

■ 神田 優さん（NPO法人 黒潮実感センター）

タイトル：人と自然が織りなす里海の風景



高知県西南端に位置する周囲3.9kmの柏島。船が宙に浮かんでいるように見えるほどの高い透明度と、その数日本一の1,150種以上の魚類が生息する柏島は、過去には湾内の定置網でマグロを捕っていた漁業の島でもあります。

人のくらしと海とが密接に結びついた里海としての柏島の海辺の風景の今と過去、そしてこれからを写真で紹介いたします。

NPO法人 黒潮実感センター <http://www.orquesta.org/kuroshio/>

■ 松政 正俊さん（岩手医科大学 教養教育センター 生物学科）

タイトル：岩手の河口・干潟のいま、むかし、これから

岩手県・三陸海岸の湾奥にある河口や干潟の今と20年程前の様子を写真で紹介し、これからの海辺がどうあって欲しいか考えます。主に津軽石川（宮古市）と織笠川（山田町）の河口・干潟について現在・過去の比較を行い、それらの例を参考にして高田松原海岸・古川沼（陸前高田市）のこれからについてお話ししたいと思います。

岩手生態学ネットワーク <https://sites.google.com/site/ecologyiniwate/>

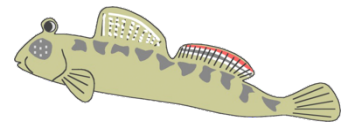
■ 山本 徹さん（日本水中科学協会 JAUS）

タイトル：お台場の今と昔

お台場潜水はJAUSの東京港水中生物研究会と東邦大学 東京湾生態系研究センターとで毎月1回、最終日曜日に開催されています。

1996年に始まり、オリンピックなどで中断はありますが今も潜り続けています。

スガジロウのダイビング <https://jsuga.exblog.jp/i22/>



10:30~12:00 部屋2

【分科会2】海や生きものの見せ方伝え方は無限大！

海や生きものに興味を持ったきっかけは？どんな方法で伝える？水族館、編み物、…Webで伝える取り組みを紹介し、皆様の楽しい経験やアイデアを交換する90分。新たな興味や発見が生まれるかもしれません！☆

※分科会内で、各登壇者の小部屋に分かれます。その際、Zaoric Knit Knitさんの小部屋では海の生きものを編むワークショップを行います。この時間に実際に編んでみたい方は、かぎ針（6号）と毛糸（並太）をご用意ください（100円ショップなどでも手に入ります）。未経験者OK、見るだけ聞だけの参加もOKです。

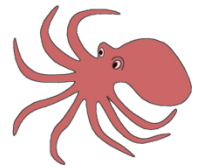
オーガナイザー：村岡 秀（学生実行委員／帝京科学大学生命環境学部）

■ 伊東 久枝さん（特定非営利活動法人 海の世界教育 NPO bridge）

タイトル：海の教材が無料でダウンロードできる 海洋学習教材サイト「LAB to CLASS」をもっともっとひろめたい!!

海洋学習教材サイト「LAB to CLASS」を公開してから5年。でも、そのまま使えるのに、使い方も紹介しているのに…まだ十分普及している感じがしない。この海辺フォーラムの知見を結集した教材なのに～もったいない！分科会では代表教材の概要とコロナ禍での取り組みをご紹介した後、発展のアイデアを皆さんからお聞きしたいと思います。

LAB to CLASS <https://lab2c.net>



■ ZAORIC（ザオリク）さん（ZAORICknitknit ザオリク ニットニット）

タイトル：かぎ針編みで作る海の生き物たちワークショップ

沖縄でニットクリエイターをしているザオリクです。私がかぎ針編みで作った海の生き物などをご覧いただき、海の生き物をリアルに編むときの生態観察の仕方などをお伝えしたいと思います。今回はかぎ針編みで作るクラゲのワークショップも開催致します。ご参加される方はかぎ針6号と並太のお好きな毛糸をご準備ください。

面白い方の編み物 ZAORICknitknit <https://zaoric-knitknit.me/>

■ 比嘉 明日香さん（一般財団法人 沖縄美ら島財団）

タイトル：コロナ禍で変化した教育普及の取り組みについて

2020年から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により、沖縄美ら海水族館も臨時休館を余儀なくされました。その中で水族館として、解説員として、お客様に還元できることは何か？過去最大のピンチをチャンスと捉えたことで、様々な新しいサービスが誕生しました。オンラインを活用したプログラムなど新たな取り組みをご紹介します。

沖縄美ら海水族館 <https://churaumi.okinawa>

13:30~15:00 部屋1

【分科会3】私の、あなたの理想の水族館

みなさんの「理想の水族館」はどんなところですか？「こんな水族館にできる？」「この展示が発展するとどうなる？」「生きものともお話しできる？」未来の水族館の展示や教育での活用について一緒に考えましょう！

オーガナイザー：村岡 秀、由井 沙帆子（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）、田中 奏子（学生実行委員 / サンシャインコースト国立大学）

■ 河合 晴義さん（ライトアニマル LightAnimal）

タイトル：デジタル動物展示がもたらす可能性

生体を用いた動物展示には多くの制約や限界があります。それらを解決するのがデジタル映像技術です。我々が開発しているデジタル動物展示システム「ライトアニマル」を例として、デジタル映像による動物展示のブレイクスルーについてお話しします。水族館の未来について、一緒に考えてみませんか。

Light Animal <https://www.lightanimal.net/>

■ 古川 健さん（ふくしま海洋科学館 館長）

タイトル：アクアマリンふくしまが開催している水生生物とのふれあいとその意義

アクアマリンふくしまにある淡水のビオトープ「BIOBIOかっぱの里」と海水のビオトープ「蛇の目ビーチ」では、春から秋には、常時、水に入り生物を手にとって観察できます。また、当館が所有する移動水族館専用車「アクアラバン」にはタッチプールがあり、触れ合う機会を提供しています。その事業内容の紹介と生物に触れさせることの意義を説明します。

アクアマリンふくしま 移動水族館 <https://www.aquamarine.or.jp/education/aquaravan/>

■ 村山 司さん（東海大学 海洋学部 海洋生物学科）

タイトル：いつかイルカと話す日

複雑な社会性を持つイルカ類は高度な知的特性を有していますが、そのなかでシロイルカの「ナック」を対象として行っている言語理解の研究について紹介します。

ナックの言語（名詞）の習得にはヒトと共通な過程が見られ、また、ヒトの言葉を模倣することもできます。いつかそんなナックと言葉を交わせる日が来るかもしれません。



13:30~15:00 部屋2

【分科会4】伝えたい 知りたい 海の世界への泳ぎ方

海の世界（海に関わるお仕事）へこれから泳いでいくには何が必要？オトナの皆さんはどのようにして泳いできたのか。これまでのこと教えてください。そして、これからのこと一緒にお話しましょう。参加者のみなさんも伝えたいこと知りたいこと持ち寄りませんか？みんなで海の世界をのぞきましょう！

オーガナイザー：安西 雅季、興 海佑（学生実行委員／帝京科学大学生命環境学部）

■ 大堀 則子さん（わくわくサンゴ石垣島）

タイトル：出会ってつながった！海辺の環境教育@石垣島

自然や生き物が好きだった私は大学で海洋生物を学び、卒業後は東京の水族館に就職。結婚と出産を機に石垣島に移住し、エコツアーと環境教育の二足のわらじを履いて歩きます。気付くとあっという間に20年。大切なのは人とのつながり、ピンチをチャンスに変えるポジティブ思考でした！

わくわくサンゴ石垣島 <https://sango.wakuwaku35.net/>

■ 徳岡 春美さん（特定非営利活動法人 西表島エコツーリズム協会）

タイトル：ヤマナ・カーラ・スナ・ピトゥ（ヤマ・カワ・ウミ・ヒト）

西表島には豊かで美しい山・川・海があり、そこに様々な生き物と共に人が暮らしています。今年、世界自然遺産に登録され、これまで先人たちが守ってきた自然と人の暮らしのバランスを、どう維持していくか？海の専門家でも何でもない私が今向き合っていることや、これまでの取り組みをご紹介します。

西表島エコツーリズム協会 <https://www.iriomote-ea.com>

■ 古瀬 浩史さん（帝京科学大学 / 海辺の環境教育フォーラム事務局）

タイトル：海辺の環境教育よろず相談所

海辺の環境教育フォーラムが今年で20年。通年事務局としてこれまでどんなことをやってきたのか、どんな転機があったのか。学生のうちにどんなことをやっておくと面白い？そんな海辺のあれこれを皆さんとお話しましょう！

海辺の環境教育フォーラム <https://umibef.com>

